

# 三條別院のご案内

## 三條別院に想う

思いがけず、「三條別院のご案内」に院議会議員より執筆してもらった事になったとの事で、原稿依頼をお受けしてビックリ、頭の中で何を記したらよいのかと思っている内に締切がきてしまいました。稿題の意に添わないかと思いますが、私にとっての淨願寺を思い出す事としました。

私は昭和八年に生まれ、戦争の中の小学校、国民小学校の最後の卒業生、六年生の時が敗戦でした。

両親は小学校の先生をしていましたが、父の病と食糧不足から十九年三月退職し家に入り農業と子育てに入りましたが、父は終戦の前々日八月十三日勝利を信じながら亡くなりました。又、祖父は三年後亡くなり、我が家の一人男となり淨願寺の世話人役をしていた我が家でしたので、祖母の手伝いをしながら、寺との係わり、いや、助けを戴きながら、生活していきました。高校入学、卒業、就職、社会人としての歩みは、家族というより住職に主にお育ていただいた、現在を戴いている私、いや我が家であります。

その頃の先人は、寺への参拝を大切にしながら生活を一步一步積みあげて、今日を迎えたのだと思います。多くの方は京都への本山参拝はとも

せめて三條別院に参拝を願いつつもかなわらずの方々も多かったのだと思います。昔の話ですが、三條別院再建の際に長岡に誘致しようと考え、運動も起きたと聞いています。

現在では思いさえ有れば本山参拝は何時でもかありません。京都の三條詰所も、三條の茶所講話も不要になりました。宗祖の教えを戴きながら互いの心と心のつながり、絆の深まりを大切に生きてきた先人社会には、ほど遠く感じられる事の多い現状が感じられます。

これ迄、皆様のご指導、ご協力を戴きながら、本山議會でお手伝い出来る参議會議員席を戴いてきた私です。淨願寺住職と共に寺院は元より、三條別院を大切に、宗祖の教えと共に生きる絆を大切にした社会を次代に伝えたいと思います。集落月例の講を継続し（現在は集会所を会場に）、別院へ懇志金のお願いは続けます。

今日二十五日は、淨願寺にて保育園児を中心に「花まつり」並びに門徒会の総会です。これからも自分で出来るお伝えをしながら心と心の絆を大切にしたいと思えます。

（第十一組淨願寺門徒 高橋英夫 氏）

## ○次回の「三條別院に想う」は、

光井 栄泉 氏（第十六組 願善寺住職）より

ご執筆いただきます

## ■別院声明教室、賑やかに開催中

別院声明教室が、五月二日から六月二十七日までの全五回の日程で始まりました。今回の参加者は、二十一名と昨年よりも多くの参加者が集まり、熱心に研鑽に励んでいます。

講師には昨年同様、新潟市北区、福照寺の中富正純氏にお願いしております。

昨年度に開催された声明教室では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌のお勤めとして、正信偈（真四句目下）、念仏讚（洵五）が講習内容で、「正直、初心者には難しい」などという声も聞かれましたが、今年は日常お勤めする機会の多いしよんげ（草四句目下）、念仏讚（洵三）が講習内容となっております。参加者からは、「毎日お勤めしている勤行を見直すいい機会になっている」という声をお聞きしております。現在、三回の教室が終わりましたが、今からでも参加したいという方がいらつしやいましたら、参加可能ですので、当別院までご連絡ください。



【毎日勤めているが、意外と難しい！】

### ■三条仏教会の花まつりが行われました

去る五月十二日、毎年恒例の三条市仏教会主催の花まつりが、三条別院本堂にて行われました。本来は庭儀を行い、白象をひいて三条の町を練り歩く予定でしたが、生憎の悪天候で旧御堂から本堂へ進む高廊下列に変更となりました。

松葉幼稚園の園児の他、みのり幼稚園、宝塔院幼稚園の子ども達が稚児衣装に着替えて行列に加わり、仏さまに甘茶を灌ぎ、お釈迦様のお誕生のお話を聞きました。

別院本堂での花まつりを通して、子ども達が仏願に触れるきっかけになれば幸いです。



【華やかな稚児衣装で嬉しそうな子ども達】

### ■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【六月二十八日（木）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

### ◎今月の法話講師

松野 祐氏（第十二組 善行寺）

※新年度の講師一覧は次号でお知らせいたします。

### ■定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。（四帖目十一通）

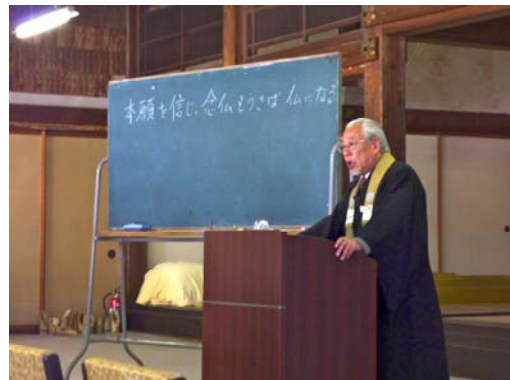
三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。

皆様、お気軽にお越しください。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（二時間程度）  
◇場所 三条別院 旧御堂  
◇御講師 五月〜七月 赤沼 義昭氏（第十三組 西方寺）

※赤沼氏には、三ヶ月にわたって法話をいただきます。



【人に聞かせる念仏になっていないか？と厳しく問いかける赤沼氏】

### ■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会（茶話会）など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院ください。お問い合わせは三条別院まで。

## ■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シートクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

## ■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では教えるほどこしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてまいりますので、お気軽にご相談させていただきます。

## ■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方（団体）の、冥加金は左記のとおりです。

### ◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

### ◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

◎去る五月七日〜八日、第十組推進員連絡協議会による別院奉仕研修が行われました。別院輪番による法話、お内仏のお給仕の講義、清掃奉仕、座談、懇親会と、充実した二日間でした。別院奉仕後は、居多ヶ浜、光源寺、新井別院と親鸞聖人の御旧跡の参拝に向かわれました。

また、五月二十二日には佐渡組推進員会による団体参拝が行われ、別院輪番の法話と諸殿拝観が行われました。一六九〇年創建の三条別院は、「地域の教化の中心道場」として、教学・儀式による教化を続けてきた歴史があります。また、三条の町が正統時代まで「仏都三条」と呼ばれていたよ



【列座によるお内仏のお給仕の講義（10組）】

うに、信仰の場として三条発展の中心的役割を果たしてきた別院です。



【参拝を終え、本堂の前で記念写真（佐渡組）】

で参りたく存じます。遠方の方も、ぜひ三条別院にお参りください。

## ◇◇編集後記◇◇

四月四日から一カ月間、三条別院の業務を離れて、本山の列座研修に行かせていただいた。毎日、腕立て伏せをした。それは、油差しが別院の倍上の重さがあり、持てなかつたからである。

本山の掲示板に金子大栄師の「人生は長さじゃない。深さです。幅です」という言葉があったが、研修を終えて、今、別院で考えることは、本堂のお給仕、清掃、儀式作法、声明の研鑽などの、毎日の業務を、丁寧に、深く、勤めていきたいということである。知らないことを知らないと言える強さを持つて、曖昧で過ごしてきたものを曖昧なままにせずに。例えば、「腕立て伏せ」のように。その深さの中で、かえって自分の力では決して届かない本願力に出遇えるのではないかと、と予感している。

別院メールアドレス：sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

(S)